

ひの市民活動団体連絡会ニュース17号

平成 22 (2010) 年 2 月 15 日
 発行：ひの市民活動団体連絡会
 会長 梁瀬 悦司
 編集：広報部会
 〒 191-0012 東京都日野市日野 1369-27
 Tel / FAX. 0 4 2 - 5 8 1 - 6 1 4 4
 E-mail: hino-cagcm@tokyo.email.ne.jp
 URL: //hinokaturen.sakura.ne.jp/index.htm.

第3回 市民活動支援センターまつり 賑やかに！

平成 21 年 12 月 6 日 (日) ひの市民活動支援センター敷地・建物の全てを使用して、第 3 回の支援センターまつりが開催されました。今回も第 2 回と同様午前中に大掃除を行い、まつりは 12 時から開催しました。はじめにご来賓からの祝辞を頂き、その後ひの市民活動団体連絡会のロゴマークも披露されました。

今回初めて実行委員会方式で開催し、スタンプラリーには 7 団体が参加しました。企業からの協賛による景品、NPO からの景品は三角クジで引いた番号に対応して配布しました。協賛頂いた「東京マツダ・大久保商事・住宅金融支援機構・NPO 法人多摩 F P・NPO 法人日野子ども劇場・NPO 法人日野映像支援隊日野団塊世代広場・日野の移り変わりを伝える会」の皆様、ありがとうございました。



連絡会のロゴマーク決定

平成 21 年 11 月 5 日の臨時世話人会で、応募 58 作品の中から、数回の投票と議論の上、東大阪市にお住まいの駒井瞭さんの作品が最終的には全員の賛成で選ばれました。その後、著作権・商標登録の問題がないか特許庁や知的所有権センターなどに問い合わせ、本人とオリジナルである旨の「確認書」を取り交わし、12 月 6 日の「支援センターまつり」で発表、表彰し、賞金 3 万円と共に郵送しました。



また、子ども遊びでは折り紙やリース作り、大人を対象としては健康カジノ・名刺づくりを実施したほか、団体固有の展示と団体 PR としてパネル展示を行いました。フリーマーケットは出店数も少なく若干盛り上がりには勢いがありませんでしたが、餅つき・豚汁・フランクフルトは好評で特に餅には今回も行列を作ってつきあがり待つ状況でした。

前の日まで雨が降りましたが、当日は快晴の青空のもと、たくさんの市民の方々と交流ができ、賑やかな一日となりました。(事務局 山本)

《 ロゴマーク
 除幕式の様子 》



作者の説明の中に、「誰にでも一目見てよくわかり広く愛され親しまれるよう少しキャラクター的にデザイン」とあるように印象的なロゴマークです。英文字が 7 つロゴマークの一部に使われていますが、みなさんわかりますか？詳しくは連絡会のホームページ「新着情報」の『連絡会のロゴマークが決定しました』をご覧ください。パンフレット類など、ロゴマークの応用範囲は広いと思いますが、どのような場面で使っていくかはみなさんでどんどん提案して活用して下さい。連絡会の印象度がアップし、親しみを持って頂ければと思います。(梁瀬悦司)

セミナー参加 報告

ファンドレイジング・日本 2010

市民団体が社会に貢献する活動が広がっている反面、その財政基盤は脆弱です。

表題の大会は、「善意の資金の循環」による NPO・NGO の基金作りの成功事例などを共有し、日本における寄付文化の発展を目指した日本初の大会で、東京赤坂の日本財団ビルで2月6・7日の2日間にわたり、北海道から九州まで約400名が参加して行われました。主催者日本ファンドレイジング協会の堀田力代表理事の挨拶とヨーロッパ・ファンドレイジング協会副会長カワルコ氏の基調講演に続いて、23のセッションで様々な資金集めの成功事例の紹介やノウハウ伝授が行われ、あたかも非営利団体による資金調達成功例の見本市の様相でした。

以下に筆者の参加したセッションからその一部を紹介します。(詳細は連絡会事務局の閲覧用報告書を)

基調講演：カワルコ氏

基金集めの専門家は「ファンドレイザー」と呼ばれ、社会で一定の地位を得ている。欧州の各地で集まり経験とノウハウの共有を図っている。講師は、基金集めには簡明なキャッチフレーズの設定と5年以上のキャンペーン継続が必要であることを強調した。

セッション2 楽しみながらファンドレイジング

3つの団体のイベント型資金調達のノウハウが紹介された。いずれもユニークな発想で資金調達に取り組む。

- ① 貧しい国々の子どもたちの教育支援をするため元マイクロソフト役員のジョン・ウッド氏が始めた「Room to Read」の日本支部のドネーションパーティー
(提供品のオークションと寄付で一度に 6000 万円)

- ② 貧しい国々の子どもたちのために図書館活動に取り組む「社団法人シャンティ国際ボランティア会」が落語芸術家協会(会長桂歌丸)との協働により全国各地のお寺などで行うチャリティ寄席による資金調達活動。
(年間 50 回以上開催)

- ③ 「難民を助ける会」が行う有名音楽家の協力で行うチャリティコンサート。

他のセッションでも様々な団体からの報告があったが各団体の活動に共通していることは、

- (1) 明確なミッションのビジョンがあること
- (2) 説明責任と透明性により寄付者の信頼を得ること
- (3) 関係者全員が意見を出し合い、多くの協力者に参加意識を持たせること



セッション13

ファンドレイジングの7つの原則・7つのステップ

キーワードは、団体が夢を持ち、その解決策を寄付者に提示すること、寄付する側・してもらおう側の双方にメリットのある Winn-Winn の提案をすること。

7つのステップとは、

- ① 潜在力の棚卸し
- ② 理事・ボランティア・支援者の巻き込み
- ③ 既存・潜在的寄付者の分析
- ④ 方法(コミュニケーションの内容と方法)の選択
- ⑤ ファンドレイジング・プランの作成
- ⑥ ファンドレイジングの実施
- ⑦ 寄付者・支援者への感謝・報告

(広報部会 湯口)

『地域デビューのすすめ』

東京都パネル展示に参加

去る1月16日、東京都保健福祉局が主催する「中高年のための地域デビューのすすめ」というイベントが東京国際フォーラムで開催されました。



ひの市民活動連絡会の斡旋で「日野団塊世代広場」「NPO 法人シニアネットクラブ」「NPO 法人福祉カフェテリア」の3団体が活動状況紹介パネルを展示して中高年の地域デビューを呼びかけました。(湯口)





「日野市市民活動支援補助金事業」をご存じですか？



14号（5月発行）で地域協働課から補助金事業についての案内がありました。毎年交付に至るまでの手続きなどを工夫し、より日野市のまちづくりにプラスになるよう改善されてきているそうです。しかし、今年度申し込みをした団体は少なかったようです。この事業をたくさんの方に知ってもらい生かしていくために、現在交付を受けて活動中の団体から、その経過や実際の活動についてインタビューしました。

★団体名と名前そして取り組んでいる事業名は？

NPO法人子どもへのまなざし 代表中川です。
事業名は「子育て真っ最中の母達が企画する母のための親育ち連続講座」です。

★補助金事業をどこで知りましたか？

ひの市民活動団体連絡会に加盟すると日野市の補助金だけでなくいろいろな助成金の情報提供もしてくれます。事務局の方が申込書の書き方なども丁寧に説明してくれました。

★申し込んでから、どうするのですか？

選考会があります。選考委員（有識者と市職員）計5名の前で提案の説明をしました。主に事業の

目的や実施計画の説明です。今後継続していくための工夫も視野に入れるよう指摘されました。

★どうして申し込もうと思ったのですか？

会の活動（子どもの居場所づくり）をより充実していくために、今できていないことにチャレンジできると思ったからです。

★取り組んでよかったことは何ですか？

どんな取り組みが必要か？改めて考え文章化することでこれからの課題が見えてきました。実際活動してみて計画段階から当事者（子育て中の親）と共に考えて行くことの大切さを改めて学ぶことができました。

★苦労したことはありますか？

どんな助成金も、本当に取り組むべき事は何か？目的を明確にすること。また早めにしっかりと計画を立て、実施するための役割分担や書類作成など後始末までの見通しを立てることも大切です。苦労したから学ぶことが出来ました。

◎この事業の目的や今年度の取り組みについては、詳しく市のホームページに載っていますのでご覧ください。

金曜サロンで、学ぼう、語ろう、考えよう！

月一回金曜の夜(19時～)に開催している「金曜サロン」。約1時間の講演の後には、簡単なおつまみとアルコール(ソフトドリンクも)を用意した「懇親会」(参加費実費)も恒例です。新らしくあなたの知らない世界に出会えたり、深く学べたり、語りあえたり、考えるきっかけになることでしょう！

『健康カジノ（ルーレット・ブラックジャック）のすすめ』 海外旅行の経験が豊富な川股さん(日野団塊世代広場)に、老人ホームでもリハビリとして取り上げられ、脳の活性化に役立つ健康カジノを紹介してもらい、実際にカジノゲームを体験しました。(11/20)



『パソコンを使った効率的な情報収集方法』

パソコンを使った情報収集方法のいろいろなテクニックとそのメリット、リスクなどを久保さん(NPO法人シニアネットクラブ)にお話をいただきました。パソコンのスキルがアップすることで、市民活動の活性化につながれば良いですね。

(12/18)



『子どもが主人公の居場所を作り続けたい！』 「あなたの子どもの頃を思い出してみてください」という中川さん(NPO法人子どもへのまなざし)の問い掛けから講演がスタート。

40年あまり手つかずの自然が残る“なかだの森”で、暑くても寒くてもそして雨の日も外でのびのびと遊んでいる子どもたち姿をスライドで紹介してもらいながら、『子育てをめぐる現状』や子どもにとって生きる事そのものである『あそび』について考える時間となりました。(1/15)



地域協働課から

市民活動団体と行政との協働のあり方について

市民活動団体と行政の協働とは、お互い対等の立場で、それぞれが主体的に、地域性や専門性などの長所を生かしながら、共通の課題を解決していくことです。

近年は、少子高齢化や環境問題への対応など、まちづくりの課題が多様化してきています。これまで行政が担ってきた公共サービスの分野においても、行政だけでは課題解決が難しくなっており、市民活動団体との協働の必要性が高まっています。そのため、市民自らが、未来に目を向け、責任を持って考え行動することが必要となってきました。

行政は公平性が求められるため、どうしても平均的、均質的なサービスになりがちですが、一方、市民活動団体は、団体の数だけ活動があり、活動

分野や内容も多岐にわたっています。そのため、様々な市民ニーズや少数意見にもきめ細かく柔軟に対応できます。市民や地域のニーズに合った公共サービスを、市民自身の手で提供していくということです。

しかし現実には、役割分担がうまくいかないことや、情報・知識不足による誤解、それぞれの認識のずれなどから、協働事業が進まないという状況もあります。

地域協働課では、中間支援組織であるひの市民活動団体連絡会とともに、日野市の市民活動支援と活性化、協働の推進を担っています。市民活動団体と行政との認識のずれや誤解などの問題解決に努め、協働事業の推進に取り組んでいきます。

今後、市民ニーズはますます多様化・複雑化していくと考えられますが、市民活動団体と行政とが協働し、よりよいまちづくりを目指して課題解決に取り組むことにより、公共サービスの質・量ともにより一層充実させることができると期待しています。

◇◆事務局だより◆◇

* 新入会員

「日野市音楽連盟」（代表 村上 敏雄）が、2009年11月に新しく入会しました。
＝ 現在37団体 部会は運営部会です。

* 第16回 ひの市民活動団体連絡会総会

日時 2010年4月4日(日) 14時～16時
会場 ひの市民活動支援センター 2階会議室
で開催されます。
加盟団体のみなさん、万障繰り合わせの上ご出席下さい。

* 新年度にむけて

平成21年度も残り1月半となり、4月1日から平成22年度がはじまります。
例年の事ですが、ひの市民活動団体連絡会の会員としての更新書類の提出をお願いいたします。

また、ひの市民活動支援センターを拠点として使用している団体が引き続き使用する場合には使用申請書の提出が必要です。

(事務局・山本、山崎)



『家族力大賞 ～家族や地域の「きずな」を強めよう～』 連絡会加盟団体の体験談が 「奨励賞」を受賞！

東京都社会福祉協議会に連絡会加盟団体であるNPO法人子どもへのまなざし代表中川さんが体験談を応募し、東京都社会福祉協議会会長賞を受賞しました。

(2/12贈呈式)

作品名 『母の手でつくりあげた「夏の幼稚園」』

編集後記

去年からひの市民活動団体連絡会広報部のメンバーになりました。日野市内にはいろいろな分野の市民活動団体で活動している人達がとても多いことに感心しました。みなさんが頑張っている姿をみて、少しでもお役に立てればと思います。(NPO法人日野子育てパートナーの会 川田)